

ニックという、生まれながらに身体に障害をもって生まれた人がいます。彼は、両腕はなく、足も片足に指が2本あるだけの状態で生まれてきました。幼いころの彼はどうしてよいかわからず、8歳の幼さで人生に失望し、神を憎み、人を恨んでいました。他人と違う自分の姿から人生の希望の変わりに苦しみを先に学んだのです。しかし、彼は神に出会い、自分の生きる目的を見出し、希望を持つように変えられました。彼の生涯を見ると絶望し、死を選んでも不思議ではないような人生ですが、今、彼は多くの人にその証を伝えています。聖書には人生を根底から力づけるものがあるのです。「イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません」（ヨハ14：6）「上を向いて歩こう」という歌があります。このモチーフになった話はあるクリスチャンの方が作ったものです。上に向いたのは涙がこぼれないためだけではなく、上にいる本当の神様に目を向けて失望、落胆のときに希望を求めたということなのです。どんなことも神様にはできます。そして聖書に神様が「起こる」と書いてあることが現実に起こると、絶望して誰にも頼れないという現実を乗り越えた大きな変化はまず、内側（心）からはじまります。希望を持つようになるのです。「本当の神様が私のところにいる」「私を愛してくれている」「私の道を開いて共に歩いてくれる」・・・希望の歌はたくさんありますが、真実に私たちの内側から確信をもてるものでないと希望が一時的なものになってしまいます。「イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現われるためです」（ヨハ9：3）私たちは不条理なことが起こると多かれ少なかれ何らかの理由を考えます。人間である以上、過去の失敗、罪はあるでしょう。しかし、イエス様はそれを指摘し、裁いて切って捨てるような方ではありません。イエス様はそれらの罪や原因となっていることを真っ向から否定し、あなたの「将来」を見ています。将来とは神のわざがこの人に現れることであり、「神のわざ」とは将来に希望を持たない人の内側が神様に介入によって、将来に希望が持てる器になる変革のわざなのです。聖書のことばには権威と力があります。イエス様には希望があります。過去がマイナスであればあるほど、神様はプラスにしてくださいます。東日本大震災では2万人の人が亡くなりました。家をなくした人、大切な家族を亡くした人など、深い悲しみに陥った人がたくさんいました。しかし、今、その場所が希望にあふれ始めています。マイナスはマイナスでは終わりません。「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」（ロマ8：28）益とはgoodness（よいこと）です。「パンタ・シュネル・ゲ・フォ・セウス・エイ・アガス・オン」神様はマイナスをマイナスのまま放っておきません。マイナスにプラスをかけてもマイナスのままです。マイナスをプラスにするためにはどうしてもマイナスをかけなくてはなりません。マイナスを通った人でなければいけないのです。だからイエス様は何の罪も犯していないのに十字架というマイナスを通ったのです。それは私たちを幸せにし、将来に希望を与えたかったからです。イエス様だけが死というどん底か復活したのです。死に勝利した方はこの方しかいません。イエス様を信じるだけで天の御国にあなたの名が記されるのです。残されたあなたの生涯、希望と将来に満ちた人生を歩めます。神のことばは必ずなります。そのことを信じイエス様と共に歩いていきましょう。（要約者：岩崎祥誉）